

K-629

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第19集

# 市内遺跡発掘調査報告書(9)

うた　まる　たて  
歌丸館の調査

ぼり　はた　い　せき  
堀端遺跡の調査

たて　の　こし　い　せき  
館之越遺跡の調査

せい　うく　し　みず　い　せき  
清六清水遺跡の調査

2001年

長井市教育委員会

# 市内遺跡発掘調査報告書(9)

うた　まる　たて　歌　丸　館　の　調　査

さり　はた　い　せき　堀　端　遺　跡　の　調　査

たて　の　ごし　い　せき　館　之　越　遺　跡　の　調　査

せい　ろく　し　みず　い　せき　清　六　清　水　遺　跡　の　調　査

平成 13 年 3 月

長井市教育委員会



# 序

昨年は埋蔵文化財にとって旧石器時代遺跡のねつ造という衝撃的な事件が発覚しました。数万年、何十万年の幅で国内最古、国内で初めてという調査結果がつぎつぎと公表され、マスコミはこぞってトップ記事として取り上げ、出土資料は充分な検証も行われないまま一人歩きしてきたのが実情のようです。

発掘担当者は、より古く、より貴重な資料だけを求めて調査を行っているではありませんが、発掘調査の成果を取り上げるのであればもっと違った角度から話題性を導き出すのもひとつの方法ではないでしょうか。埋蔵文化財においてはスポーツ競技のように「より速く、より強く」という結果が全てではないように思われます。より古いものが発見されればこれまでの資料との関連の中で移り変わりが重要視され、より貴重な資料が見つかれば一般的な資料の中でどのような貴重さの意味をもっているのかということに重要性が秘められていると思われます。

国内における開発事業に係る発掘調査の件数は一年間で1万数千件に達しますが、そのなかで保存される遺跡の件数は0.1パーセントにも満たない数といわれています。各地で緊急発掘調査が行われていますが、特別な意味合いをもつ遺跡は希で、ほとんどが一般的な遺跡です。しかし、それらのなかから類似性のある遺跡を線で結び、さらには面としてとらえ古代人の生活を浮き彫りにすることで、歴史資料の価値が見出せるものと考えています。

本事業は、開発との調整を図ることを目的とする調査ですが、将来一大発見につながる可能性をも秘めています。地道な調査ではありますが、継続することがこのたびのねつ造問題の解決につながる方法のひとつと考えております。

最後になりましたが、遺跡保護の調整にご協力いただいた関係者の方々と、悪天候のなか発掘調査に参加くださったみなさまに、心より感謝申し上げます。

平成13年3月

長井市教育委員会

教育長 竹田辰雄



## 例　　言

1. 本報告書は、長井市教育委員会が国庫補助を得て実施した平成12年度以降開発事業における調整ならびに遺跡台帳整備に関する市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 事業期間は平成12年4月1日から平成13年3月31日までである。
3. 調査体制は次のとおりである。

|        |       |                 |      |
|--------|-------|-----------------|------|
| 調査員    | 岩崎義信  | (長井市教育委員会文化課主査) |      |
| 調査参加者  | 安部国藏  | 稻垣良一            | 梅津成一 |
|        | 梅津敏子  | 梅津ヨシ子           | 大沼正  |
|        | 熊谷政美  | 桑原甚一            | 小閑実  |
|        | 佐藤吉四郎 | 鈴木弘三            | 鈴木吉巳 |
|        | 高橋信一  | 高橋良             | 堀越陽一 |
|        | 沼沢保   | 曳地英藏            | 横沢みつ |
|        | 横山進   | 横山春助            |      |
| 事務局長   | 渋谷源一郎 | (長井市教育委員会文化課長)  |      |
| 事務局長補佐 | 村上和雄  | (長井市教育委員会文化課補佐) |      |
| 事務局員   | 岩崎義信  | (長井市教育委員会文化課主査) |      |
| 事務局員   | 吉川幸代  | (長井市教育委員会文化課主事) |      |
| 事務局員   | 荒生幸子  | (長井市教育委員会文化課)   |      |

4. 本調査にあたっては、次の方々のご指導ご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

文化庁、山形県教育庁文化財課、(財)山形県埋蔵文化財センター、山形おきたま農業協同組合、旭電気株式会社、宝光院、長井市建設課、都市整備課、古代の丘資料館、鈴木章、鈴木正二、蜂谷みつ、平田辰男の各氏

5. 土器拓影図の縮尺は1/3で、挿図・付図の縮尺はスケールで示した。また、遺物写真のスケールは5cmを示す。

6. 本書の編集・執筆は岩崎義信が担当し、拓本、挿図・図版の作成は荒生幸子の補助を得た。

## 目 次

|                 |    |
|-----------------|----|
| I 調査に至るまで       | 1  |
| 1. 調査の目的        | 1  |
| 2. 調査の方法        | 1  |
| 3. 調査の経過        | 1  |
| II 開発事業に係る調査    | 4  |
| (1) 現地踏査の概要     | 4  |
| 1. 中道二丁目地区      | 4  |
| 2. 愛宕山館         | 4  |
| 3. 今泉地区         | 4  |
| 4. 歌丸地区         | 4  |
| 5. 加賀塚遺跡        | 4  |
| (2) 立会調査の概要     | 5  |
| 6. 歌丸館          | 5  |
| 7. 清六清水遺跡       | 16 |
| (3) 試掘調査の概要     | 20 |
| 8. 金地ヶ原遺跡       | 20 |
| 9. 堀端遺跡         | 22 |
| 10. 館之越遺跡       | 28 |
| 11. 源徳原館        | 32 |
| III 遺跡台帳整備に係る調査 | 34 |
| 12. 館之越遺跡       | 34 |
| 13. かんかね館       | 38 |
| 報告書抄録           | 39 |

## 挿 図 目 次

|                     |    |
|---------------------|----|
| 第1図 調査箇所位置図         | 3  |
| 第2図 現地踏査概要図         | 4  |
| 第3図 歌丸館概要図          | 5  |
| 第4図 歌丸館遺構分布図        | 6  |
| 第5図 歌丸館遺構平面図・断面図(1) | 7  |
| 第6図 歌丸館遺構平面図・断面図(2) | 8  |
| 第7図 歌丸館遺構平面図・断面図(3) | 9  |
| 第8図 清六清水遺跡調査概要図     | 17 |

|      |                   |    |
|------|-------------------|----|
| 第9図  | 清六清水遺跡遺構平面図・断面図   | 18 |
| 第10図 | 金地ヶ原遺跡調査概要図       | 20 |
| 第11図 | 堀端遺跡調査概要図         | 23 |
| 第12図 | 堀端遺跡トレンチ概要図（1）    | 24 |
| 第13図 | 堀端遺跡トレンチ概要図（2）    | 25 |
| 第14図 | 館之越遺跡調査概要図        | 28 |
| 第15図 | 館之越遺跡トレンチ概要図      | 29 |
| 第16図 | 源徳原館調査概要図・トレンチ概要図 | 33 |
| 第17図 | 館之越遺跡調査概要図        | 34 |
| 第18図 | 館之越遺跡トレンチ概要図      | 35 |
| 第19図 | 館之越遺跡土器拓影図        | 36 |
| 第20図 | かんかね館縄張図          | 39 |

## 図 版 目 次

|      |                    |    |
|------|--------------------|----|
| 図版1  | 歌丸館（1）             | 12 |
| 図版2  | 歌丸館（2）             | 13 |
| 図版3  | 歌丸館（3）             | 14 |
| 図版4  | 歌丸館（4）             | 15 |
| 図版5  | 清六清水遺跡（1）          | 16 |
| 図版6  | 清六清水遺跡（2）          | 19 |
| 図版7  | 金地ヶ原遺跡             | 21 |
| 図版8  | 堀端遺跡（1）            | 22 |
| 図版9  | 堀端遺跡（2）            | 26 |
| 図版10 | 堀端遺跡（3）            | 27 |
| 図版11 | 館之越遺跡（1）           | 30 |
| 図版12 | 館之越遺跡（2）           | 31 |
| 図版13 | 源徳原館               | 32 |
| 図版14 | 館之越遺跡（1）           | 35 |
| 図版15 | 館之越遺跡（2）           | 37 |
| 図版16 | かんかね館              | 38 |
| 付表1  | 調査行程表              | 2  |
| 付表2  | 埋蔵文化財ヒアリングに係る調査一覧表 | 2  |
| 付表3  | 歌丸館遺構計測表（1）        | 10 |
| 付表4  | 歌丸館遺構計測表（2）        | 11 |



# I 調査に至るまで

## 1. 調査の目的

本市では昭和57年から行った遺跡詳細分布調査を発端にし、市内全域にわたる分布調査を実施してきたところ、現在まで216箇所の遺跡を把握しているが近年時代の要求に伴い、遺跡が存在する地域にも開発がおよぶようになってきた。本調査は開発事業との調整を図り、事前に遺跡の保護にあたることを目的としたものである。対象となる開発事業の内容は本市が行う公共事業と宅地造成をはじめとする民間開発事業が主体となる。

また、周知の遺跡はほとんどが表面踏査で確認したものであるため、遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにする目的から一部試掘調査を実施し、記録として保存にあたり遺跡台帳の整備につとめた。

## 2. 調査の方法

調査は内容・目的から次の方法で実施した。

### (1) 現地踏査

遺跡の周辺が開発範囲に含まれる場合や、現在遺跡として登録されていない地域でも、開発事業予定区域が広範囲におよぶ場合は現地踏査、聞き取り調査を行い遺跡の有無の確認にあたり、開発事業と遺跡保護の調整にあたる。

### (2) 試掘調査

周知の遺跡が開発事業予定区域に含まれる場合や、遺跡周辺に開発がおよぶ場合には坪掘りやトレンチ掘りを行い、遺構・遺物の広がりを確認し、さらに造構検出面までの深さを把握し開発事業と遺跡保護の調整を図る。

また、遺跡台帳を整備する目的から、これまで表面踏査による推定遺跡範囲について坪掘りやトレンチ掘りを行い、遺構・遺物の検出にあたり遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにし、遺跡台帳整備の補筆にあたる。

### (3) 測量調査

遺跡台帳整備の目的から遺跡の地形測量を行い、遺跡内容の補筆にあたる。

## 3. 調査の経過

長井市教育委員会ではこれまで行ってきた分布調査をもとに遺跡地図を作成しており、この地図を開発関係機関に配布し、今後計画される各種開発事業にさきがけて埋蔵文化財に関するヒアリングを実施し、必要に応じ上記の調査を実施した。また、民間開発についても隨時受付を行っており、開発に係る事前調査依頼の受け入れ態勢を組織し、同様の調査を行った。その結果、本年度の調査件数は13件で公共事業に係る調査が2件、民間開発に係る調査が8件、遺跡台帳整備に係る調査が3件である。今年度は公共事業が減少した反面、民間の宅地造成事業が増大したのが特色といえる。

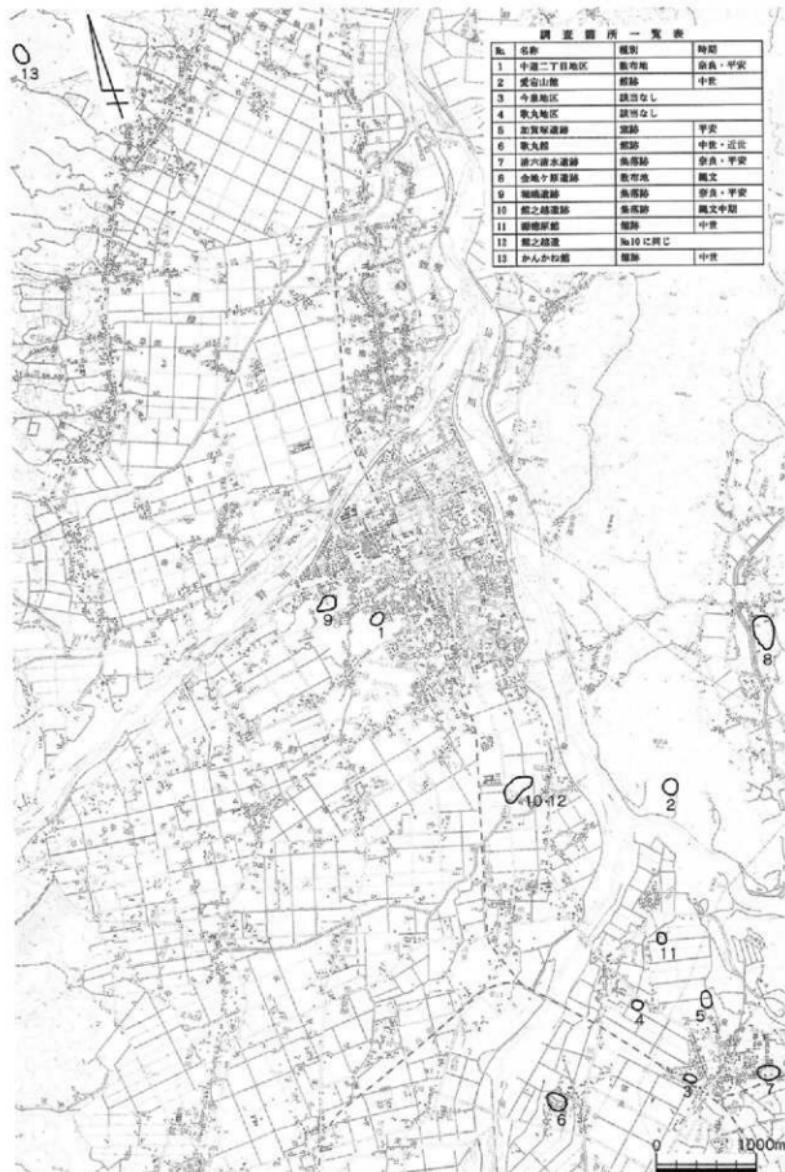
なお、現地調査の行程と、ヒアリングに係る調査の内容は次のとおりである。

## 調査行程表

| 日程<br>内 容 | 平成 12 年 |    |    |    |    |    |     |     |     |    | 平成 13 年 |    |  |
|-----------|---------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|---------|----|--|
|           | 4月      | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月      | 3月 |  |
| 現地踏査      | ■       |    |    |    |    |    |     |     | ■   |    |         |    |  |
| 試掘調査      | ■       |    |    |    |    | ■  | ■   | ■   |     |    |         |    |  |
| 測量調査      |         |    |    |    |    |    |     | ■   |     |    |         |    |  |
| 報告書作成     |         |    |    |    |    |    |     |     |     |    |         |    |  |

## 埋蔵文化財ヒアリング一覧

| 事業種別        | 遺跡名     | 調査区分 | 種別   | 時期      | 備考   |
|-------------|---------|------|------|---------|------|
| 道路改良工事に係る調査 | 歌丸館     | 立会調査 | 館跡   | 中・近世    |      |
|             | 金地ヶ原遺跡  | 試掘調査 | 散布地  | 縄文時代    |      |
| 宅地造成に係る調査   | 堀端遺跡    | 試掘調査 | 集落跡  | 奈良・平安時代 | 民間開発 |
|             | 中道二丁目地区 | 現地踏査 | 散布地  | 奈良・平安時代 | 民間開発 |
|             | 館之越遺跡   | 試掘調査 | 集落跡  | 縄文時代中期  | 民間開発 |
|             | 歌丸地区    | 現地踏査 | 該当なし |         | 民間開発 |
|             | 源徳原館    | 試掘調査 | 館跡   | 中・近世    | 民間開発 |
|             | 今泉地区    | 現地踏査 | 該当なし |         | 民間開発 |
| 工場造成に係る調査   | 清六清水遺跡  | 立会調査 | 集落跡  | 奈良・平安時代 | 民間開発 |
| 土砂採取に係る調査   | 愛宕山館    | 現地踏査 | 該当なし |         | 民間開発 |
| 遺跡台帳整備に係る調査 | 加賀塚遺跡   | 現地踏査 | 窯跡   | 平安時代    |      |
|             | 館之越遺跡   | 試掘調査 | 集落跡  | 縄文時代中期  |      |
|             | かんかね館   | 測量調査 | 館跡   | 中世      |      |



第1図 調査箇所位置図

## Ⅱ 開発事業に係る調査

### (1) 現地踏査の概要

**1. 中道二丁目地区** 宅地造成構想に係る調査である。水田地帯に新興住宅地が建ちならぶ地域で新たな宅地造成構想を受けたため現地踏査を行った。当該地は未踏査区域であったが、水田面から土師器片を数片採集したため、開発にあたっては協議が必要である旨報告を行った。

**2. 愛宕山館** 土砂採取に係る調査である。愛宕山館の尾根伝いに半径 250 m の範囲にわたり戦国期の山城の遺構が点在しているため踏査を行った。開発予定区域は遺構の存在する尾根の手前までで、遺跡にはおよばないことが判明したため、その旨を報告した。

**3. 今泉地区** 宅地開発に係る調査である。JR 今泉駅の南西部には中世の今泉館跡があり、このたびは駅北東の一角が開発区域に含まれることになったため調査を行ったが、開発予定地に遺跡がおよんでいないことが判明し、その旨報告した。

**4. 歌丸地区** 宅地造成に係る調査である。当該区域は水田地帯で周知の遺跡には該当しないが、周辺には加賀塚遺跡や界斎遺跡があり未踏査区域であることから調査を行ったが、遺構・遺物は発見されず遺跡がおよんでいない旨報告した。

**5. 加賀塚遺跡** 遺跡台帳整備に係る調査である。昭和 40 年代に土地改良に伴う緊急発掘調査が行われ平安時代の窯跡が発見された。このたび国道 287 号線バイパス工事が計画され、遺跡周辺にも各種開発が予想されることから調査を行った。調査では遺跡に関わるものは発見されなかつたが、隣接する丘陵の西斜面には須恵器の窯跡が点在しており、開発にあたっては試掘調査の措置が必要である。



第2図 現地踏査概要図

## (2) 立会調査の概要

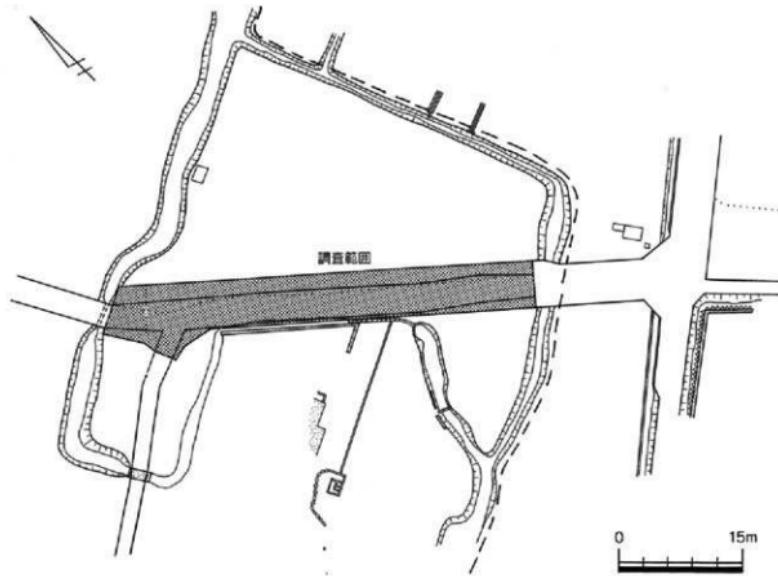
### 6. 歌丸館

所在地 長井市歌丸地内

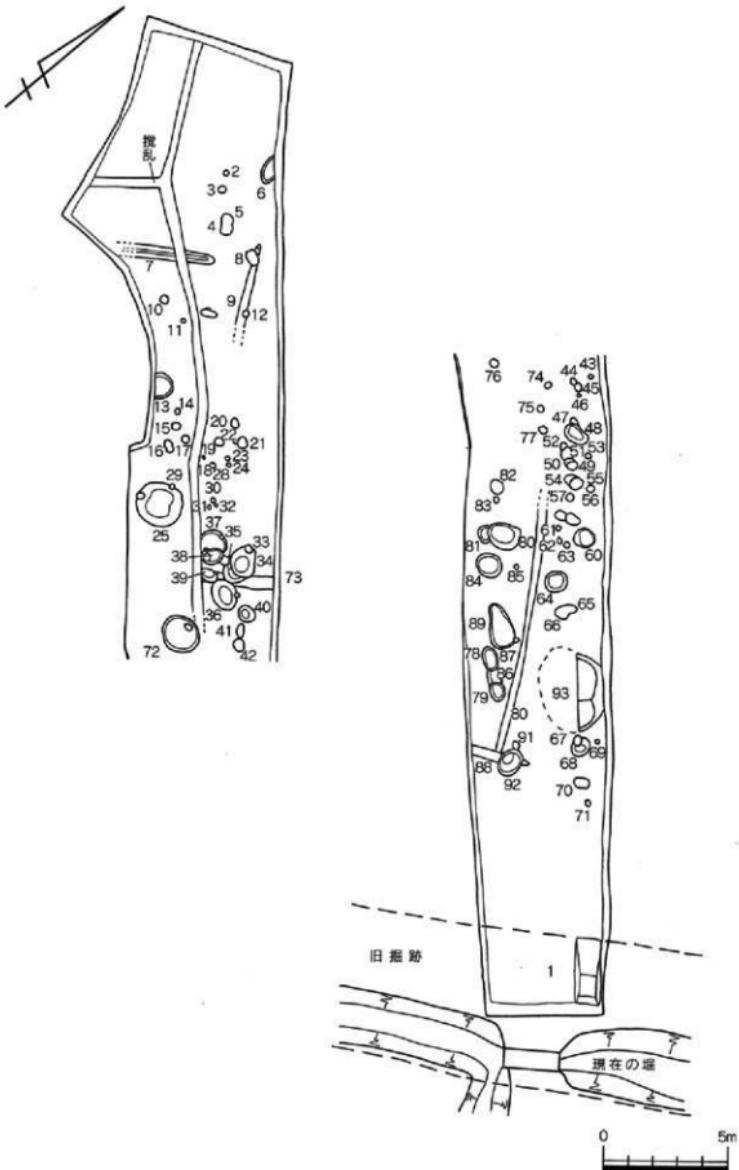
調査期間 平成 12 年 11 月 27 日～12 月 7 日

遺跡環境 長井市の南西部、白川によって形成された河岸段丘上に位置し、標高約 215 m を測る。人家の周囲には濠が巡らされており、本遺跡の周囲にも濠が巡り家屋の南側には長屋門構造の建物が存在する。一帯は環濠集落としてまちなみ整備が行われ、このたびは施工前の発掘調査で調査対象面積は 232 m<sup>2</sup> である。

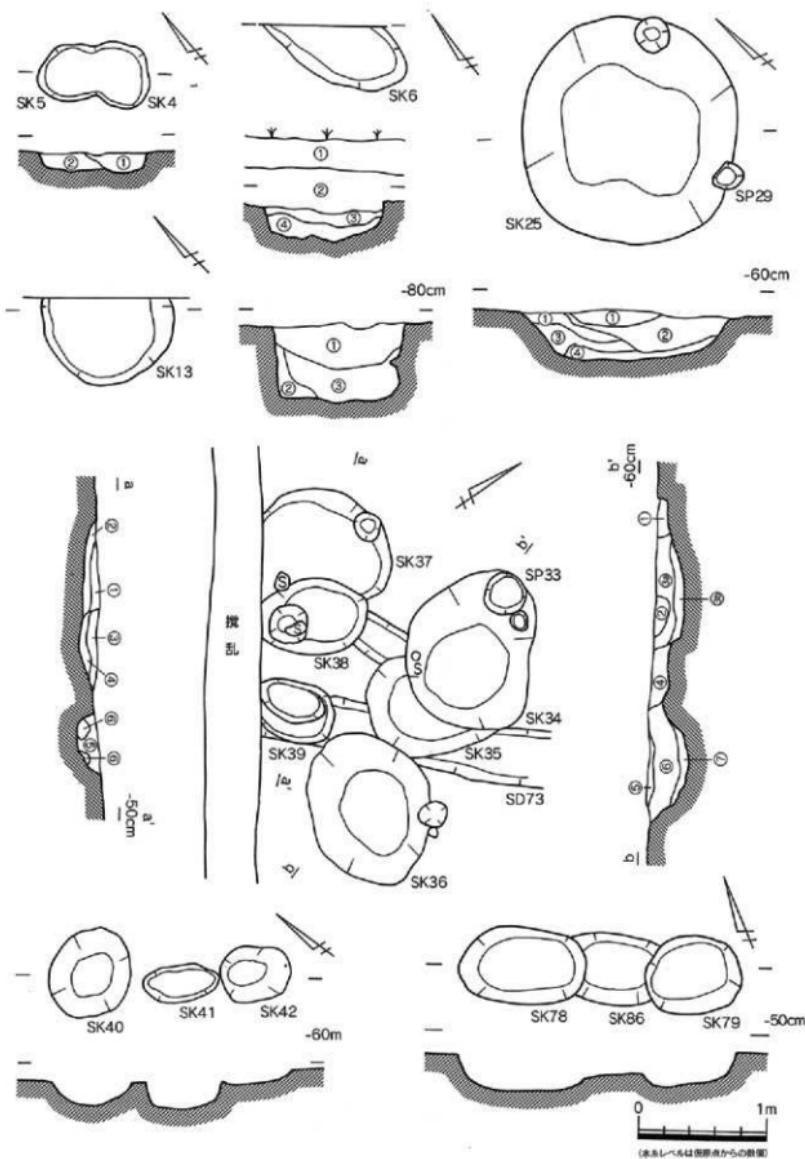
調査結果 平成 6 年度および 9 年度の調査結果をもとに発掘調査を実施した。その結果、土坑（SK）28 基、柱穴（SP）60 基、溝跡 5（SD）を検出し、詳細については遺構計測表 1、2 に示した。調査区東端において北東から南西方向にかけて深い落ち込みを確認し掘り下げたところ断面が「～」形を呈する遺構を検出した。覆土には水生植物の根が多く含み③層からは素焼きで器壁に煤状の付着物のある内耳鍋片が出土したことから堀跡と考えられ、現在見られる濠は旧堀跡を埋め立てた後、規模を縮小して造られたものと推測される。また、調査区中央部で柱穴が切り合い関係をもち密集して検出された。柱は検出されなかったが断面観察から直径が 15 ～ 20 cm の柱痕である。SP 10・16・57 では底面に扁平窓が検出されたが建物跡としてとらえるには至らなかった。出土遺物は包含層から 18 世紀の陶磁器が、旧堀跡から 15 ～ 16 世紀の内耳鍋が出土しており、戦国期から江戸時代の遺跡と判明した。



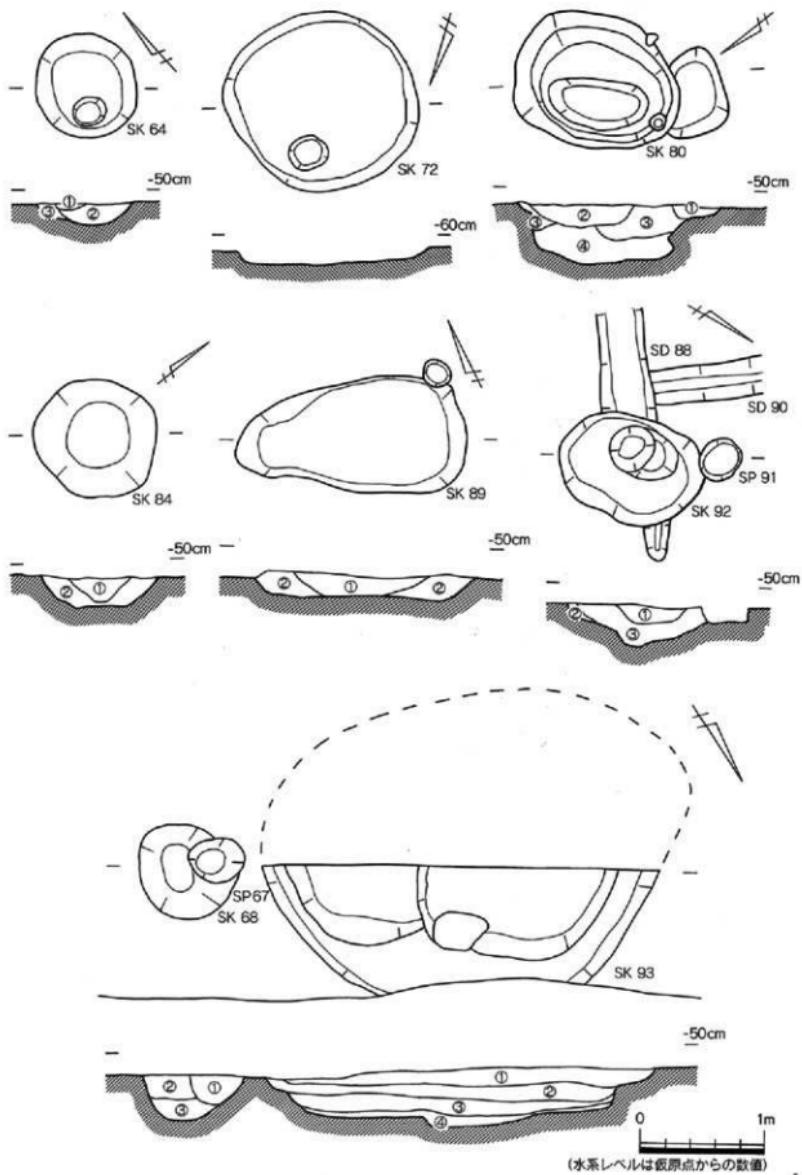
第 3 図 歌丸館調査概要図



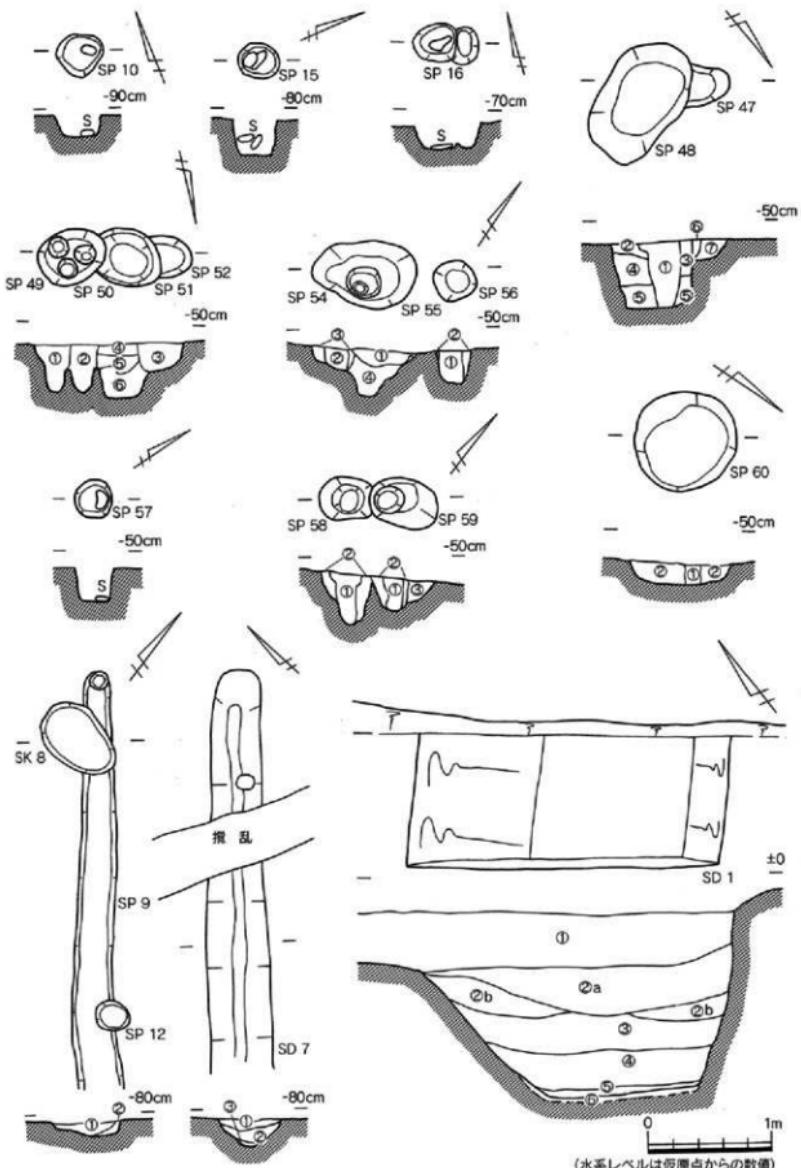
第4図 歌丸館遺構分布図



第5図　歌丸館遺構平面・断面図（1）



第6図 歌丸館遺構平面・断面図（2）



第7図 歌丸館遺構平面・断面図（3）

# 遺構計測表 1

(SK: 土坑 SP: 柱穴 SD: 溝跡 単位: cm)

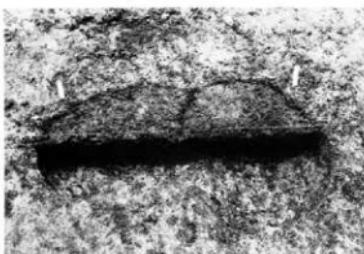
| 遺構番号 | 長径      | 短径  | 深さ  | 覆土  | 備考              |
|------|---------|-----|-----|---|-----------------|
| 1    | 推定幅 630 |     | 110 | ①耕作土 ②a 茶褐色土 ②b 茶褐色砂質土 ③暗茶褐色土 ④灰黒褐色土 ⑤青灰色土 ⑥褐色砂質土 | SP ③層より内耳鍋片出土   |
| 2    | 23      |     | 16  |   | SP              |
| 3    | 32      |     | 19  |   | SP              |
| 4    | 56      | 50  | 16  | ①黒褐色土   | SK (SK 5より新しい)  |
| 5    | 50      | 43  | 15  | ②暗茶褐色土  | SK (SK 4より古い)   |
| 6    | 66      | 59  | 24  | ①耕作土 ②黒褐色土 ③暗茶黒褐色土 ④黒褐色土                          | SK              |
| 7    | 320     | 51  | 21  | ①黒褐色土 ②黒褐色土 (褐色土をブロック状に含む) ③黒褐色土 (褐色土を霜降り状に含む)    | SD              |
| 8    | 67      | 46  | 11  | ①黒褐色土   | SK              |
| 9    | 345     | 36  | 10  | ②暗茶褐色土  | SD              |
| 10   | 32      |     | 17  |   | SP (底面に扁平疊あり)   |
| 11   | 18      |     | 9   |   | SP              |
| 12   | 24      |     | 9   |   | SP              |
| 13   | 72      | 104 | 75  | ①灰黒褐色土 ②黒褐色土 ③黒褐色粘質土                              | SK              |
| 14   | 25      |     | 17  |   | SP              |
| 15   | 28      |     | 29  |   | SP              |
| 16   | 49      | 30  | 19  |   | SP (底面に扁平疊あり)   |
| 17   | 30      |     | 32  |   | SP              |
| 18   | 13      |     | 11  |   | SP              |
| 19   | 35      |     | 28  |   | SP              |
| 20   | 38      |     | 22  |   | SP              |
| 21   | 47      |     | 18  |   | SP              |
| 22   | 20      |     | 8   |   | SP              |
| 23   | 22      |     | 15  |   | SP              |
| 24   | 18      |     | 8   |   | SP              |
| 25   | 187     | 169 | 41  | ①灰茶褐色土 ②黒褐色土 ③暗灰茶褐色土<br>④暗灰茶褐色粘質土                 | SK              |
| 26   | 18      |     | 10  |   | SP              |
| 27   | 68      | 25  | 26  |   | SK              |
| 28   | 25      |     | 17  |   | SP              |
| 29   | 27      |     | 27  |   | SP              |
| 30   | 21      |     | 14  |   | SP              |
| 31   | 16      |     | 15  |   | SP              |
| 32   | 15      |     | 6   |   | SP              |
| 33   | 33      |     | 10  | ①暗茶褐色土  | SP (SK 34より新しい) |
| 34   | 132     | 112 | 24  | ②茶褐色土 ③a 暗灰茶褐色土 ③b 暗灰褐色土 (褐色土をブロック状に含む)           | SK (SK 35より新しい) |
| 35   | 108     | 84  | 15  | ④暗灰褐色土 (3 b層に近い砂質土)                               | SK (SK 36より新しい) |
| 36   | 130     | 96  | 31  | ⑤灰褐色土 (赤褐色土をブロック状に含む) ⑥暗灰褐色土 (暗灰褐色土をブロック状に含む)     | SK (SK 35より古い)  |
| 37   | 105     | 75  | 27  | ⑦暗灰褐色土 (灰褐色土をブロック状に含む)                            | SK (SK 38より古い)  |
| 38   | 87      | 63  | 28  | ①灰黒褐色土 ②暗灰褐色土 (褐色土をブロック状に含む)                      | SK (SK 37より新しい) |
| 39   | 58      | 48  | 16  | ③暗茶褐色土  | SK              |
| 40   | 76      | 62  | 19  |   | SK              |
| 41   | 61      | 30  | 21  |   | SK              |
| 42   | 55      | 46  | 12  |   | SK              |
| 43   | 18      |     | 30  |   | SP              |
| 44   | 26      |     | 36  |   | SP              |
| 45   | 40      |     | 30  |   | SP              |
| 46   | 15      |     | 15  |   | SP              |
| 47   | 32      | 24  | 17  | ⑥暗灰褐色土 ⑦暗茶褐色土                                     | SP (SP 48より古い)  |
| 48   | 101     | 63  | 53  | ①暗灰茶褐色土 (柱痕) ②暗茶褐色土 ③褐色土<br>④暗灰褐色土 ⑤灰褐色土          | SP (SP 47より新しい) |
| 49   | 42      | 21  | 38  | ⑥暗茶褐色土 (褐色土の小ブロックを若干含む)                           | SP (SP 50より新しい) |
| 50   | 54      | 24  | 39  | ⑦暗茶褐色土 (褐色土の小ブロックを多く含む)                           | SP (SP 51より新しい) |

## 遺構計測表2

| 遺構No. | 長径  | 短径  | 深さ | 覆 土  | 備 考                 |
|-------|-----|-----|----|--|---------------------|
| 51    | 59  | 46  | 43 | ④暗灰褐色土(褐色土をブロック状に含む) ⑤褐色土 ⑥暗灰褐色土(褐色土ブロックの割合が増)                           | SP (SP 50, 52より古い)  |
| 52    | 37  | 33  | 23 | ③暗茶褐色土(①と同質であるが炭化物を含まず)  | SP (SP 51より新しい)     |
| 53    | 25  | 21  | 14 |  | SP                  |
| 54    | 42  | 31  | 16 | ②暗灰褐色土(褐色土をブロック状に含む) ③暗茶褐色土(褐色土を霜降状に含む)                                  | SP (SP 55との新旧関係は不明) |
| 55    | 56  | 53  | 39 | ①暗灰褐色土(褐色土を霜降状に含む) ④暗茶褐色土(褐色土をブロック状に含む)                                  | SP (SP 54との新旧関係は不明) |
| 56    | 32  | 31  | 26 | ①暗灰褐色土(柱痕) ②茶褐色土   | SP                  |
| 57    | 31  | 30  | 26 |  | SP (底面に扁平襍あり)       |
| 58    | 40  | 35  | 40 | ①黒褐色土(柱痕) ②暗茶褐色土(褐色土をブロック状に含む)   | SP                  |
| 59    | 55  | 38  | 26 | ①黒褐色土(柱痕) ②暗茶褐色土(褐色土をブロック状に含む) ③暗灰褐色土                                    | SP                  |
| 60    | 84  | 80  | 16 | ①黒褐色土(柱痕) ②暗茶褐色土   | SP                  |
| 61    | 19  |     | 26 |  | SP                  |
| 62    | 20  |     | 31 |  | SP                  |
| 63    | 25  |     | 27 |  | SP                  |
| 64    | 84  | 82  | 17 | ①暗灰褐色土(褐色土を霜降状に含む) ②暗灰褐色土(①に近いが褐色土を含まず) ③暗茶褐色土                           | SK                  |
| 65    | 41  |     | 15 |  | SP                  |
| 66    | 54  |     | 24 |  | SP                  |
| 67    | 43  | 35  | 23 | ①暗灰褐色土(しまり弱い)  | SP (SK 68より新しい)     |
| 68    | 78  | 70  | 36 | ②暗灰褐色土(褐色土の小ブロックを多く含む)<br>③暗灰褐色土(褐色土の小ブロックを多量に含む)                        | SK (SP 67より古い)      |
| 69    | 19  |     | 31 |  | SP                  |
| 70    | 64  | 40  | 18 |  | SP                  |
| 71    | 18  |     | 21 |  | SP                  |
| 72    | 145 | 144 | 12 |  | SK                  |
| 73    | 290 | 50  | 10 |  | SD                  |
| 74    | 30  |     | 18 |  | SP                  |
| 75    | 28  |     | 22 |  | SP                  |
| 76    | 38  |     | 24 |  | SP                  |
| 77    | 35  |     | 17 |  | SP                  |
| 78    | 98  |     | 32 |  | SK                  |
| 79    | 74  |     | 27 |  | SK                  |
| 80    | 132 | 107 | 48 | ②茶褐色土 ③暗茶褐色土 ④暗茶褐色土(褐色土をブロック状に若干含む)                                      | SK                  |
| 81    | 76  | 65  | 13 | ①黒褐色土  | SK                  |
| 82    | 61  | 53  | 24 |  | SK                  |
| 83    | 32  | 25  | 31 |  | SP                  |
| 84    | 101 | 94  | 22 | ①黒褐色土 ②暗茶褐色土(褐色土をブロック状に含み粘性あり)   | SK                  |
| 85    | 24  |     | 10 |  | SP                  |
| 86    |     | 58  | 17 |  | SP                  |
| 87    | 23  |     | 10 |  | SP                  |
| 88    | 208 | 42  | 14 |  | SD                  |
| 89    | 185 | 93  | 16 | ①暗黒褐色土(炭化物を多く含む) ②暗茶褐色土(褐色粘質土をブロック状に含む)                                  | SK                  |
| 90    | 990 | 30  | 12 |  | SD                  |
| 91    | 35  | 32  | 13 |  | SP                  |
| 92    | 118 | 86  | 34 | ①茶褐色土 ②暗褐色土 ③暗茶褐色土   | SK                  |
| 93    | 346 | 244 | 46 | ①暗茶褐色土(小穂を多く含みしまり弱い) ②暗茶褐色土(粘性を帯びる) ③暗茶褐色土(拳大の穂を多量に含む) ④灰褐色土(粘性が強くしまりあり) | SK                  |



遺跡近景



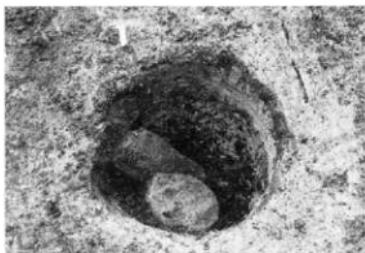
SP4・5 土層断面（南から）



SD7 土層断面（南から）



SK6 土層断面（南から）

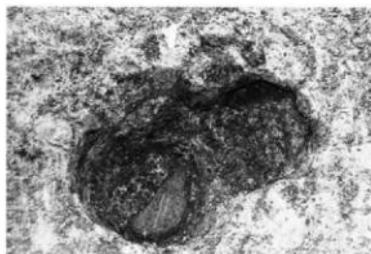


SP15 碓検出状況（西から）

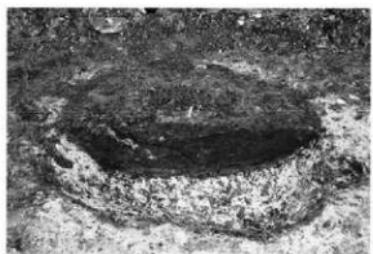
図版1 歌丸館(1)



SD1 土層断面（南から）



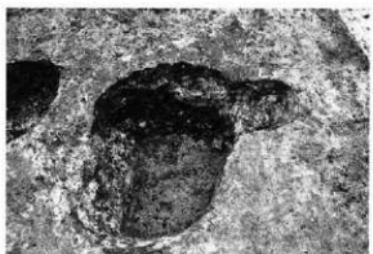
SP16 確検出状況（南から）



SK25 土層断面（北から）

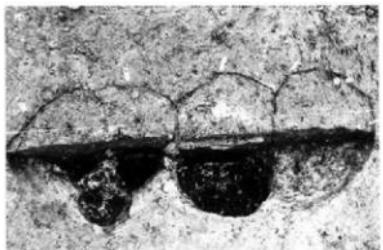


SP47・48 土層断面（北から）

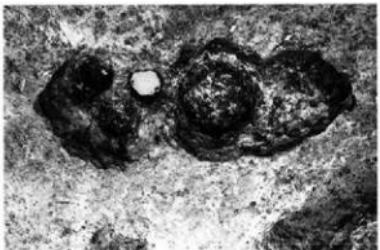


SP47・48 完掘状況（北から）

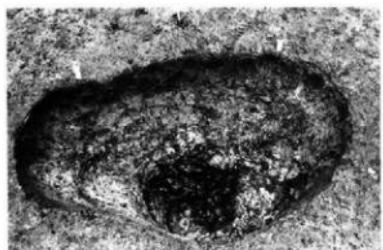
図版2 歌丸館(2)



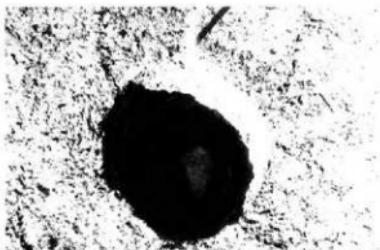
SP49 ~ 52 土層断面 (北から)



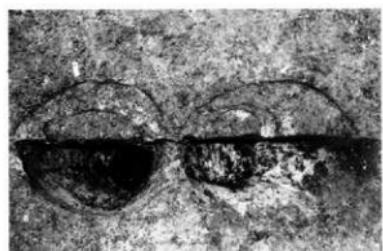
SP49 ~ 52 完掘状況 (北から)



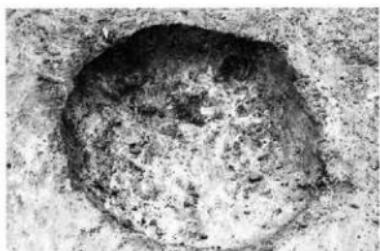
SP54, 55 完掘状況 (南から)



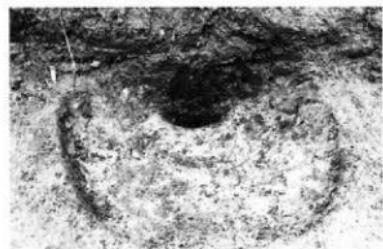
SP57 完掘状況 (南から)



SP58, 59 土層断面 (南から)



SP60 完掘状況 (東から)



SK64 半掘状況 (北から)

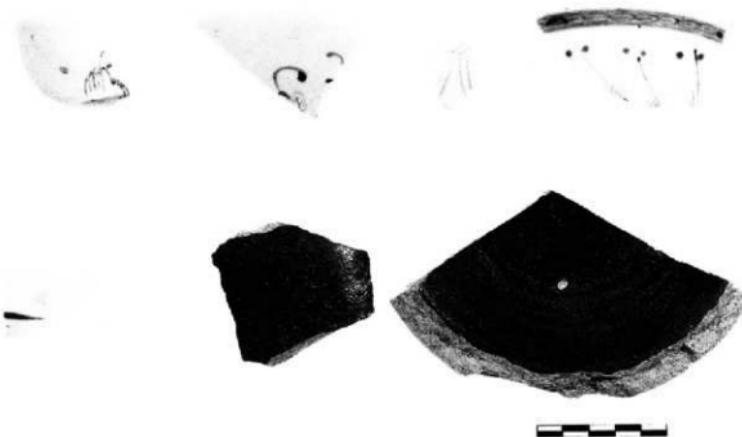


SK93 土層断面 (北から)

図版3 歌丸館(3)



出土遺物



出土遺物  
図版4 歌丸館(4)

## 7. 清六清水遺跡

所在地 長井市今泉地内

調査期日 平成12年9月11～14日

起因事業 社屋造成工事

遺跡環境 JR今泉駅の南東約200m、国道113号線沿いの小丘陵上に位置する。平成3年の分布調査で発見された遺跡で、井戸跡と伝えられる湧水地から須恵器片を探集している。集落の中心部は現在の国道部分も含まれると推測され、遺跡の遺存状況が懸念される。また、丘陵北西部斜面には数基の須恵器の窯跡群が確認されており、本遺跡との関わりが注目される。

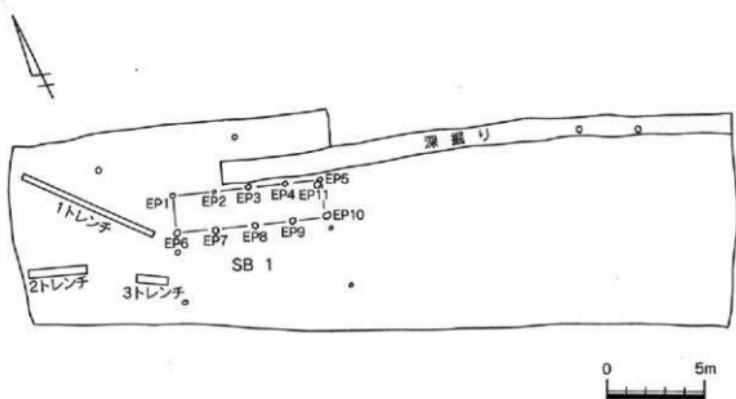
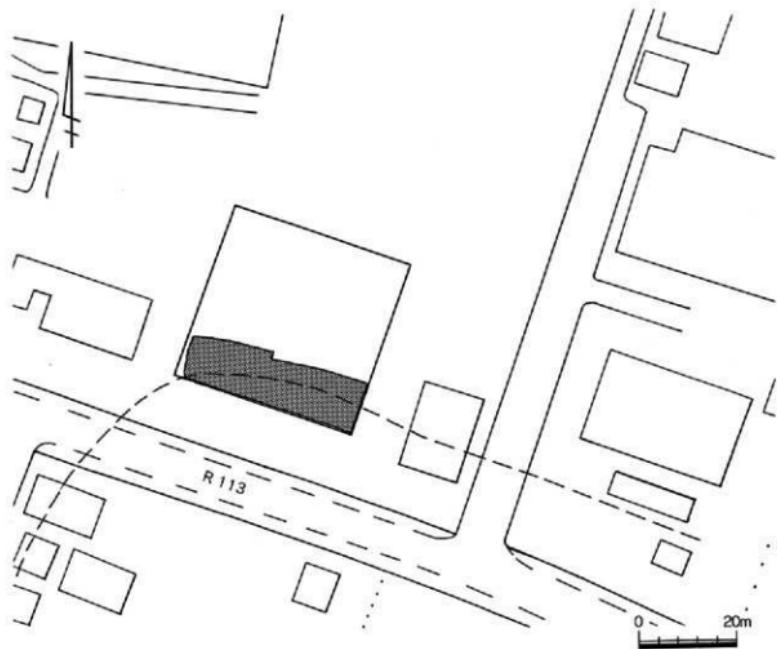
調査状況 平成9年の試掘調査結果をもとに、遺跡に開発がおよぶ範囲35×11mを対象に重機を用いて包含層まで掘り下げ、検出した遺構は人力で掘り進めた。また、調査区北西部においてピット列が検出されたため調査範囲を拡張し同様に掘り下げを行った。

調査結果 調査区東側では工場造成による削平が、西側では近代の搅乱が見られ遺物・遺構の検出はほとんどなかったが、中央部でピット列が検出された。遺構は2層茶褐色土上面で確認され、3層明橙褐色土に達している。直径は20cm前後で約1.8mの間隔で2列にならび、覆土は褐色や黄色褐色の粘質土でかたくしまりのある土質である。断面の精査から柱痕も確認されEP4とEP2では柱痕部が空洞化した状態で検出され、EP10の覆土から須恵器壺の破片が出土した。これらのことから本遺構は桁行4間梁行1間の掘立柱建物跡で、出土した須恵器底部にヘラ切の痕跡が認められることから8世紀代の集落跡と考えられる。

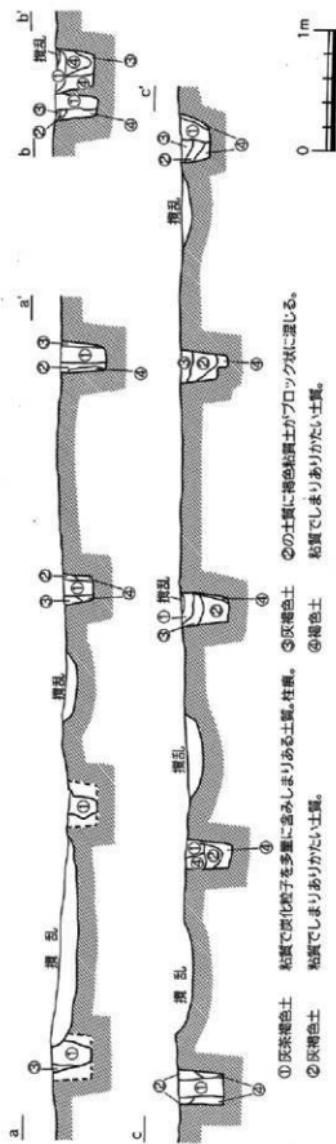
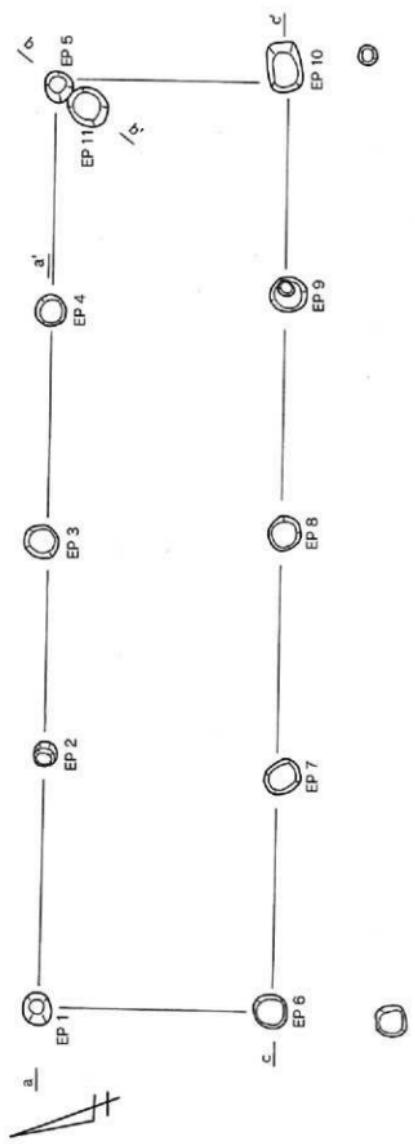


遺跡近景

図版5 清六清水遺跡(1)



第8図 清六清水遺跡調査概要図



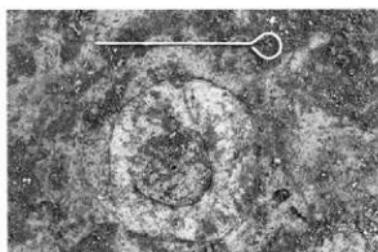
第9図 清水遺跡構造平面・断面図



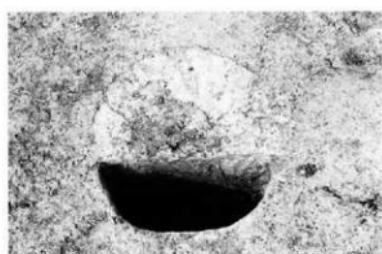
出土遺物拓影図



SB1 検出状況（東から）



EP6 検出状況



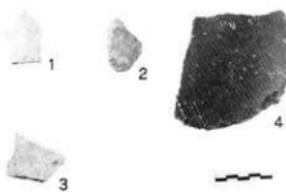
EP3 半截状況（南から）



EP3 棘検出状況



SB1 完掘状況（南から）



出土 遺 物

図版6 清六溝水遺跡（2）

## (2) 試掘調査の概要

### 8. 金地ヶ原遺跡

所在地 長井市上伊佐沢館地内

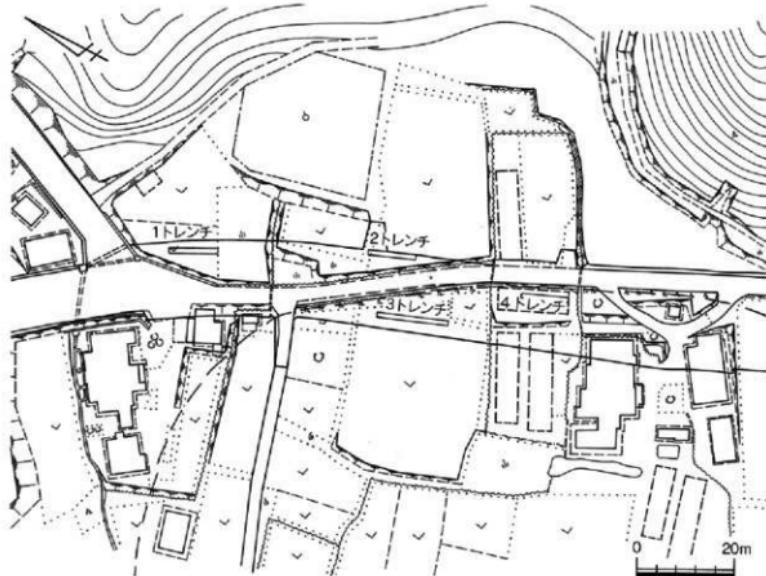
調査期日 平成 12 年 11 月 15 ~ 16 日

起因事業 久保桜芦沢線市道改良工事

遺跡環境 国指定天然記念物「伊佐沢の久保ザクラ」の東側、逆川左岸の河岸段丘上に位置する遺跡で、昭和 63 年の分布調査で石器や剥片が採集されている。伊佐沢地区は丘陵の麓から段丘縁辺にかけて多くの遺跡が確認されていて、本遺跡もその中のひとつである。当地域は黒褐色表土の発達が著しく、厚いところでは 80 ~ 90 cm の深さに達する。そのため地表面で採集される遺物は少量であるが、根菜類の栽培や土木工事などで深掘りした際に完形土器や石器の出土が伝えられている。

試掘状況 開発予定区域内において、遺跡範囲および遺跡隣接地に 1 × 10 m のトレンチを 3 箇所、1 × 15 m のトレンチを 1 箇所それぞれ任意に設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 山際のトレンチでは遺構確認面まで 30 ~ 40 cm と深いが、平坦面では 15 ~ 20 cm と浅い傾向にある。各トレンチで地山層を掘り込んだ円形や溝状の暗茶褐色土の遺構プランを検出し、4 トレンチでは円形プランの遺構から陶器片が出土したが、各トレンチでガラス片の出土や搅乱がよんどおり、当該区域に遺跡はよんでいないものと判断される。



第 10 図 金地ヶ原遺跡調査概要図



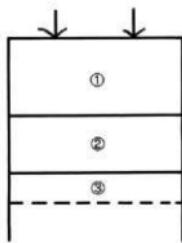
遺跡近景（南東から）



2 トレンチ完掘状況（北から）



2 トレンチ土層断面（北から）



- ①耕作土 20cm
- ②暗茶褐色土 15cm
- ③褐色土 8cm

2 トレンチ土層柱状図



出土遺物

図版7 金地ヶ原遺跡

## 9. 堀端遺跡

所在 地 長井市中道地内

調査期日 平成 12 年 4 月 24 ~ 25 日、9 月 6 ~ 8 日

起因事業 宅地造成工事

遺跡環境 野川の河岸段丘上に位置し、市街地西部の水田地帯と新興住宅街が隣接する地域に広がる遺跡である。当地区の起源は江戸期の寛政年間に越後地方から移り住んだのが始まりと伝えられている。

試掘状況 開発予定区域内に  $1 \times 5$  m、 $1 \times 10$  m、 $1 \times 20$  m のトレンチを任意に 32 箇所設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

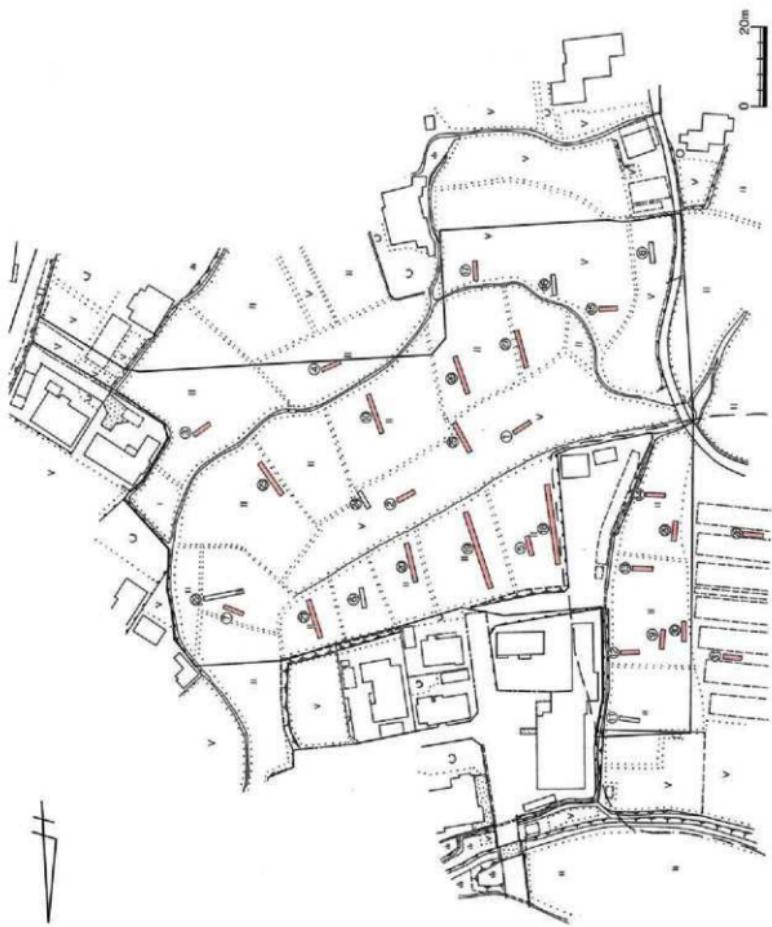
調査結果 T P 12 ~ 15、18 ~ 21、23、25 ~ 28 の各トレンチで遺構が、10、13、14、17 ~ 19、21、23、26、28 ~ 31 の各トレンチで遺物が出土した。しかし、検出した遺構はほとんどが旧河川跡や溝跡で出土遺物は 1 ~ 2 点と単発的で摩滅した須恵器片がほとんどである。また、検出された遺構の覆土は 5 ~ 10 cm 未満と浅いのにたいし、T P 9、12、13、28 ~ 30 で検出された土坑やピットは 20 ~ 30 cm と安定した覆土を有する。これらのことから、調査区中央部において東西方向に旧河川跡の存在が予想され、遺構検出面までの堆積土は 50 ~ 90 cm と深い。反対に調査区北西部と南東部では地山層までの堆積土が 20 cm と浅いが、他のトレンチと比較すると遺構覆土がやや安定した状況を保っており、特に調査区北西部において遺跡の遺存状態が比較的良好と推測される。したがって本遺跡は奈良・平安時代の集落跡と見られ、範囲は調査区の北西部以西と推定され、当該区域に開発工事が及ぶ場合は充分な協議が必要である。

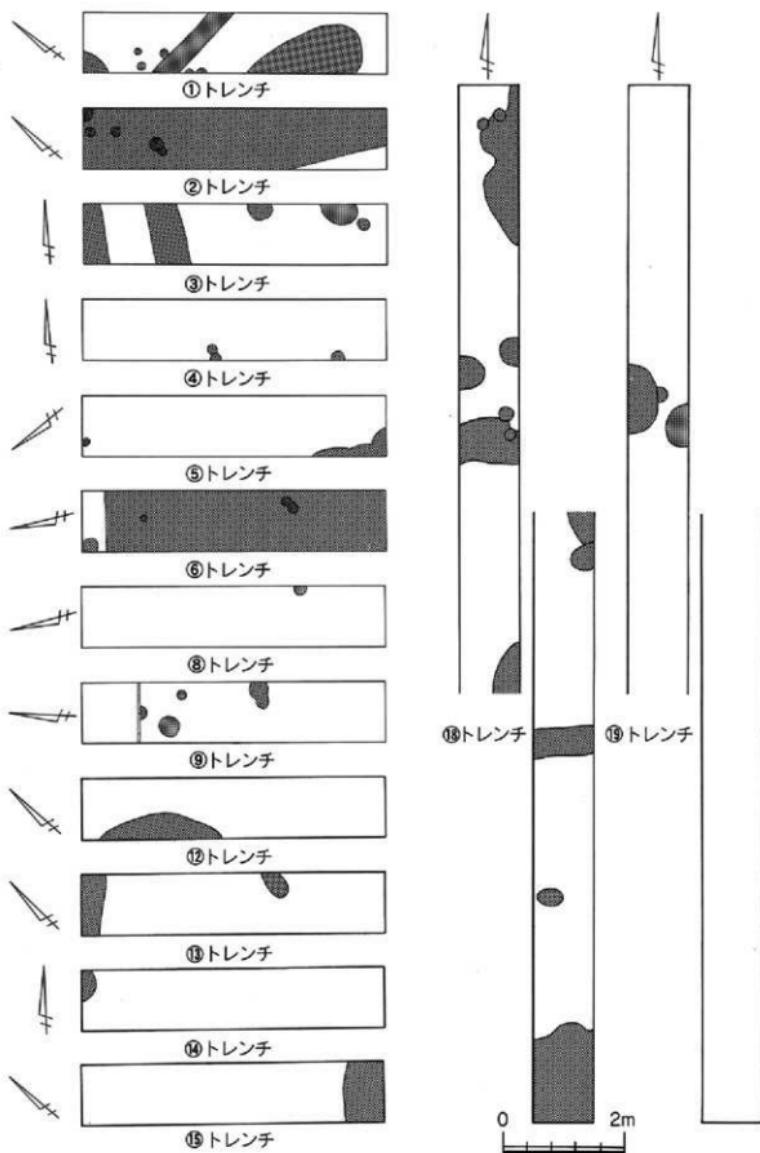


遺 蹤 近 景

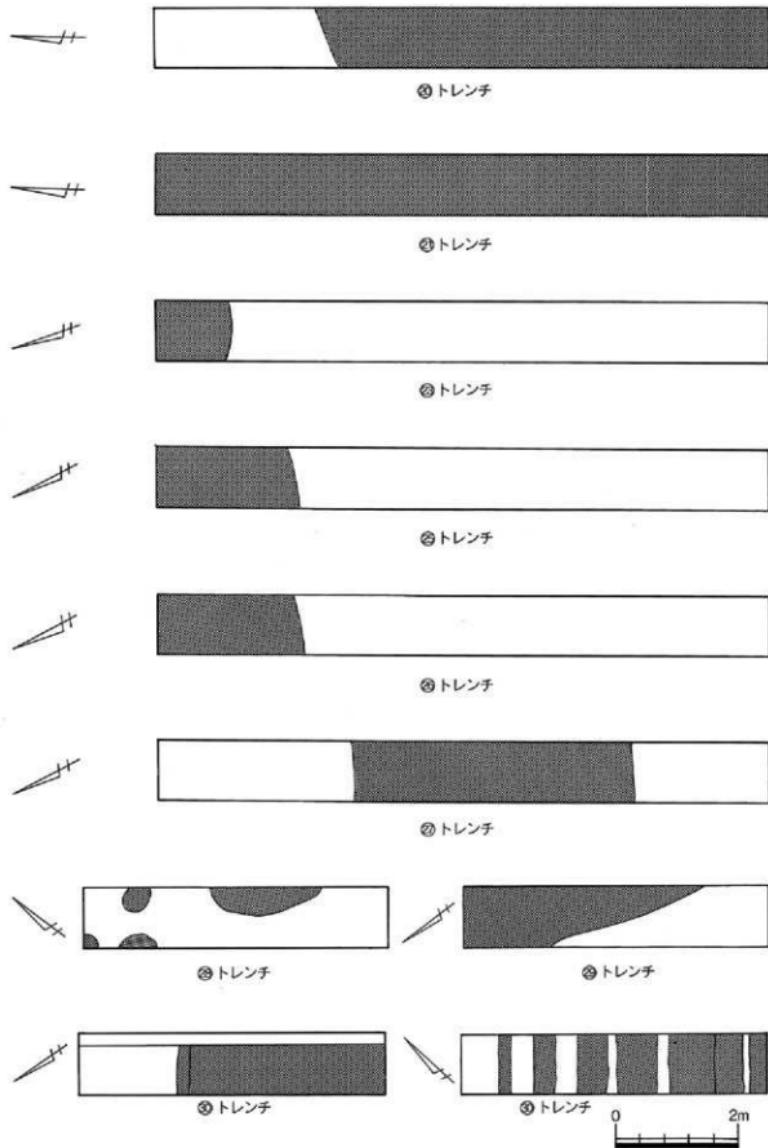
図版 8 堀 端 遺 蹤 (1)

第11圖 煙墩遺跡調查概要圖





第12図 堀端遺跡トレンチ概要図（1）



第13図 堀端遺跡トレンチ概要図（2）



1 トレンチ



7 トレンチ



12 トレンチ



15 トレンチ



18 トレンチ



25 トレンチ

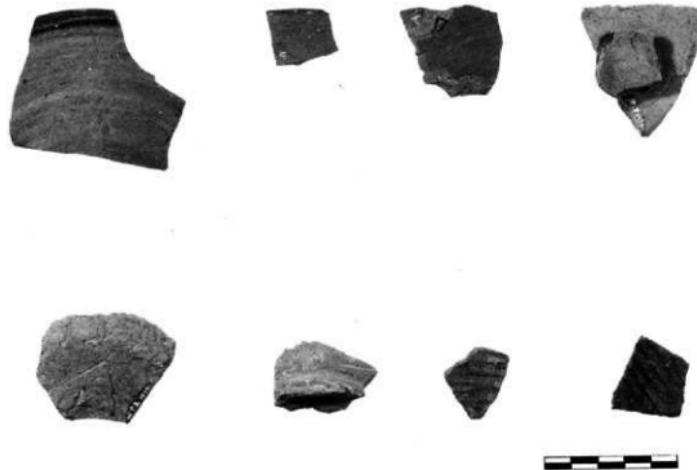


28 トレンチ

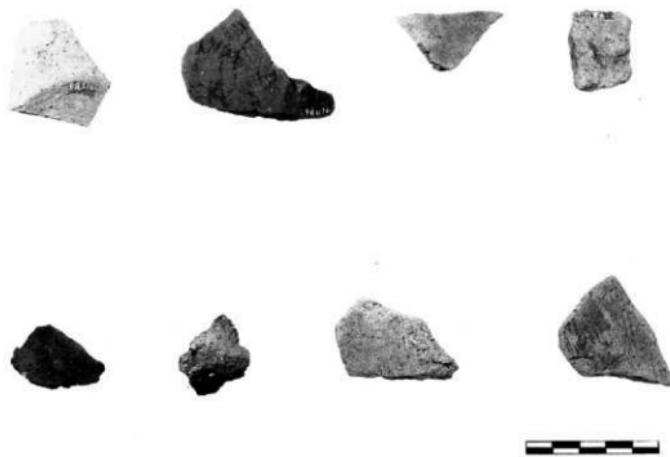


30 トレンチ

図版9 堀 端 遺 踪 (2)



出土遺物



出土遺物  
圖版10 烟端遺跡(3)

## 10. 館之越遺跡

所在地 長井市泉地内

調査期日 平成 12 年 10 月 24 ~ 25 日

起因事業 宅地造成工事

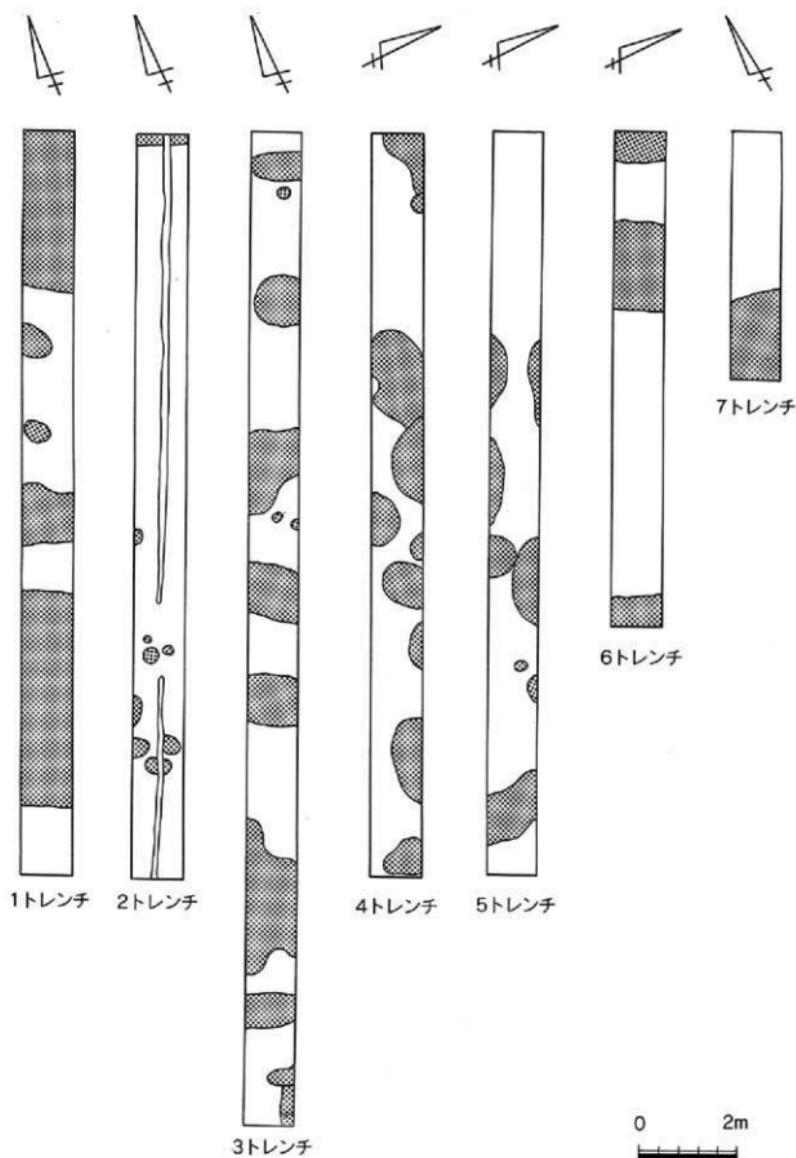
遺跡環境 館之越遺跡は平地の中に存在する独立丘陵で東西 300 m 南北 150 m の範囲と推定される。昭和 40 年代の土砂採取工事に伴って緊急発掘調査が行われ、多量の土器・石器が出土し縄文時代中期中葉の遺跡として知られている。また、平成 3 年には試掘調査で、平成 10 年には県道改良工事で立会調査が行われ、丘陵全域から遺物や遺構を検出している。

試掘状況 開発予定区域内に  $1 \times 5\text{m}$ 、 $1 \times 10\text{m}$ 、 $1 \times 15\text{m}$ 、 $1 \times 20\text{m}$  の各トレンチを任意に 7 箇所設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 1、3 ~ 6 トレンチで地山層を掘り込んだ円形や楕円形、溝状の暗茶褐色土や黒褐色土の遺構プランを検出し、土器や石器が出土した。しかし、調査区の北側ほど遺構覆土も浅くなり遺物包含層も消滅することが確認された。また、調査区域西側では作付けが行われているため試掘調査は実施できなかったが、ボーリング調査を行ったところ 7 トレンチ同様に耕作土直下は砂礫層となることから、開発予定区域の西側には遺物包含層の存在は少ないものと考えられる。以上のことから、館之越遺跡はこれまで小丘陵の高台面が遺跡範囲と推定されていたが、このたびの調査で概要図に示したとおり小丘陵に隣接する低地にも遺跡がおよんでいることが確認された。したがって開発にあたっては充分な協議が必要となる。

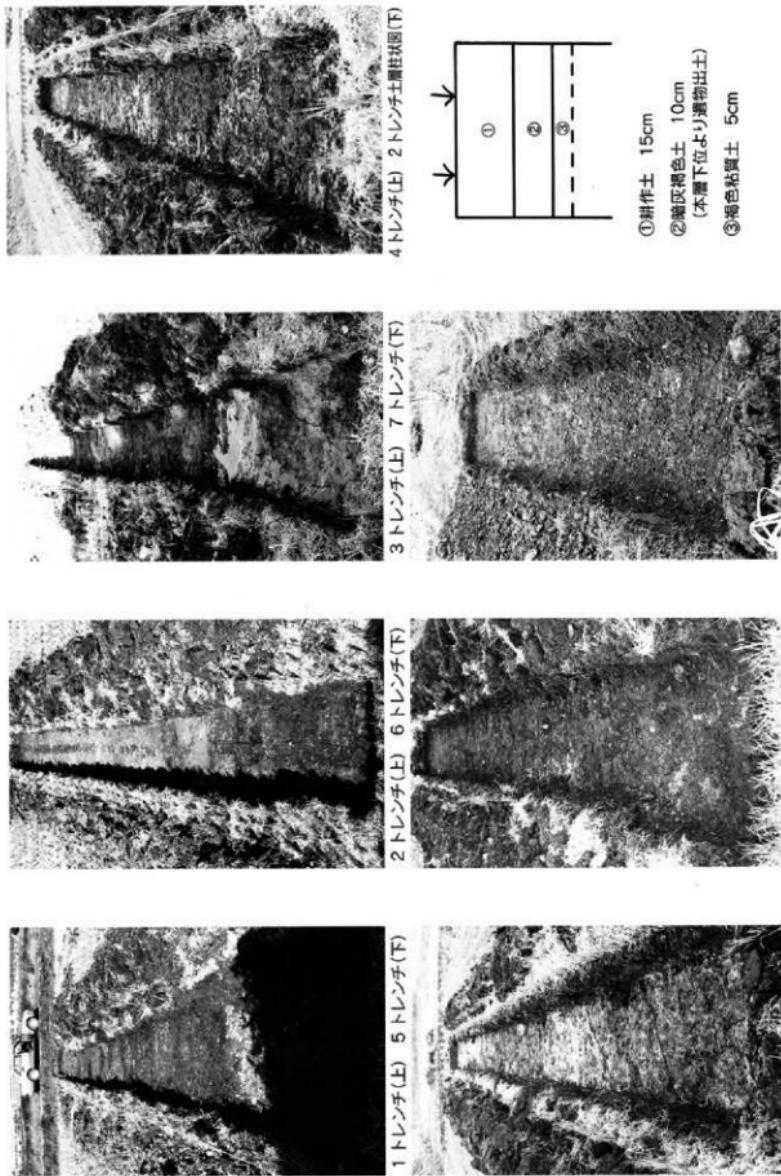


第 14 図 館之越遺跡調査概要図



第15図 鶴之越遺跡トレンチ概要図

図版11 鮎之越遺跡(1)





遺跡近景（東から）



出土遺物  
図版12 館之越遺跡(2)

## 11. 源徳原館

所在地 長井市河井地内

調査期日 平成 12 年 4 月 21 日

起因事業 宅地造成工事

**遺跡環境** 最上川と白川の河岸段丘上の水田地帯に位置し、古くは源徳院とよばれ寺跡と伝えられ、遺跡範囲は東西 120 m 南北 150 m を測る。また、遺跡の周囲には土塁が築かれ、それらを囲むように堀が巡り南と北側には土塁と堀の途切れた通用口があり、それぞれ南門・北門とよばれていた。しかし、昭和 50 年代の土地改良事業で土塁や堀は破壊を受け、北東隅と南東部に現存しているだけである。

**試掘状況** 開発予定区域内に 1 × 5 m のトレンチを任意に 4 箇所設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

**調査結果** 4 トレンチでは後世の土木工事で搅乱を受け遺構・遺物は検出されなかつたが、1 トレンチで堀跡の輪郭の一部が確認され、東北隅の堀跡から南に向かた延長線上に位置することから館跡の東南部の輪郭と推定される。2 トレンチでは土坑が検出された。東西に長径をもち暗茶褐色の覆土を有する遺構である。3 トレンチでは柱穴や塙状に積み上げられた土坑を伴う小礫群が検出された。源徳院という名称から、館跡が廃棄された後に寺として利用されたとすれば、小礫群は墓跡の可能性がある。これらのことから、当区域が開発される場合には、遺跡保護に関し充分な協議が必要となる。



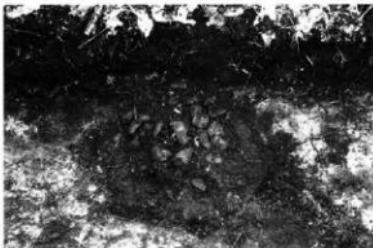
遺跡近景（南から）



土塁（北東から）

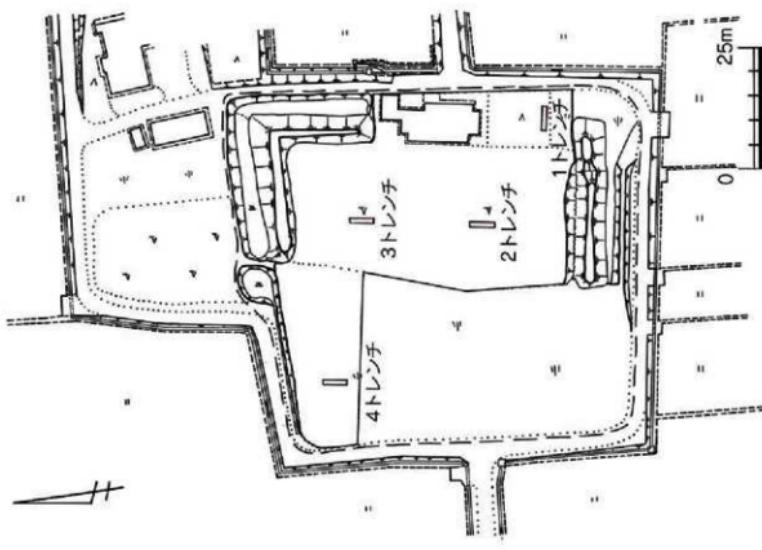


2 トレンチ

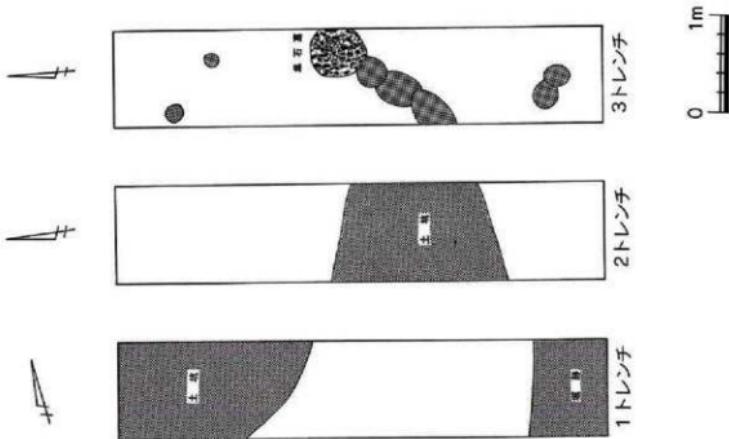


遺構検出状況

図版 13 源徳原館



第16図 源徳原砲調査概要図・トレンチ概要図



### III 館之越遺跡に係る調査

#### 12 館之越遺跡

所在地 長井市泉地内

調査期間 平成12年12月21～22日

試掘状況 調査可能な範囲に $1 \times 5\text{m}$ のトレンチを3箇所、 $2 \times 5\text{m}$ のトレンチを1箇所任意に設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

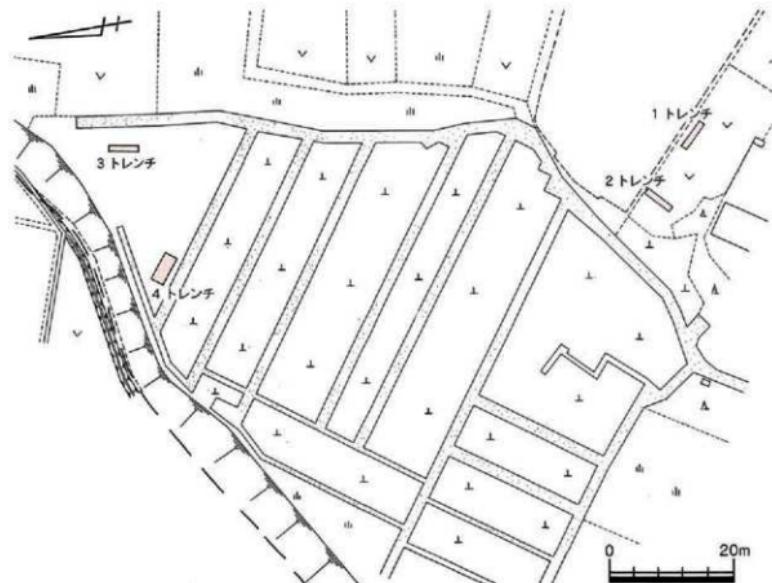
調査結果 本遺跡はNo.10館之越遺跡と同一であるが前者は平坦地に本調査区は独立丘陵上に位置している。各トレンチで遺構・遺物を検出し、4トレンチからまとまった土器が出土した。

##### 第1群土器（第19図1～31、図版15）

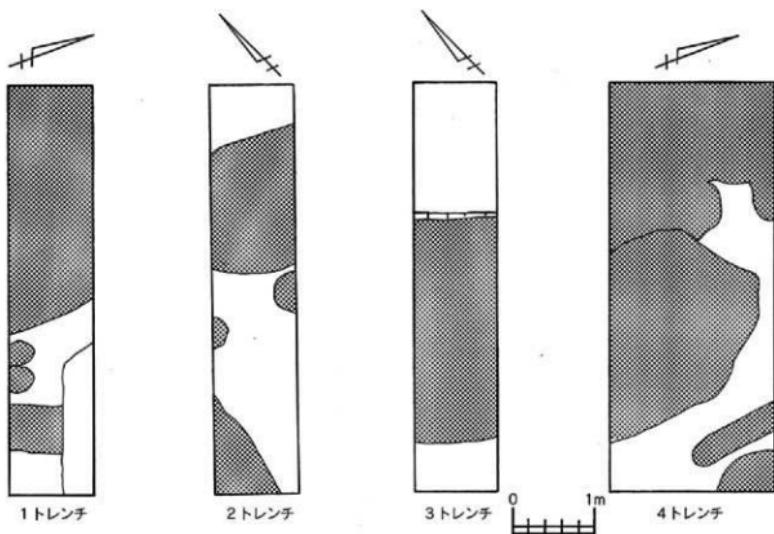
原体の側面圧痕が施され沈線と隆帯で文様を区画する土器で、縄文中期大木8a式に比定される土器を本群とする。1～3は口縁部に縦位の原体の側面圧痕が施され、1の口頸部には波状と横位の沈線による区画文が見られる。10・12・13は沈線による幾何学文が、8・9・11には棒状・爪形・半截竹管状の刺突文がそれぞれ施される。14～27は隆帯や沈線を地文の単節縄文の上に区画として施している。

##### 第2群土器（第19図32、図版15）

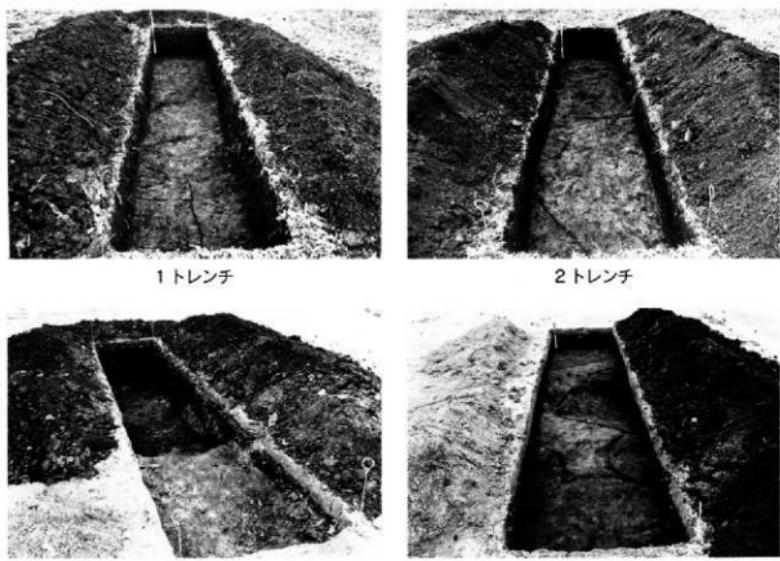
複数の平行沈線で文様を区画する土器で、縄文後期加曾利B式に並行する土器である。波状口縁に3条の平行沈線が見られ、口縁内側はやや肥厚し、沈線断面は三角形を呈する。



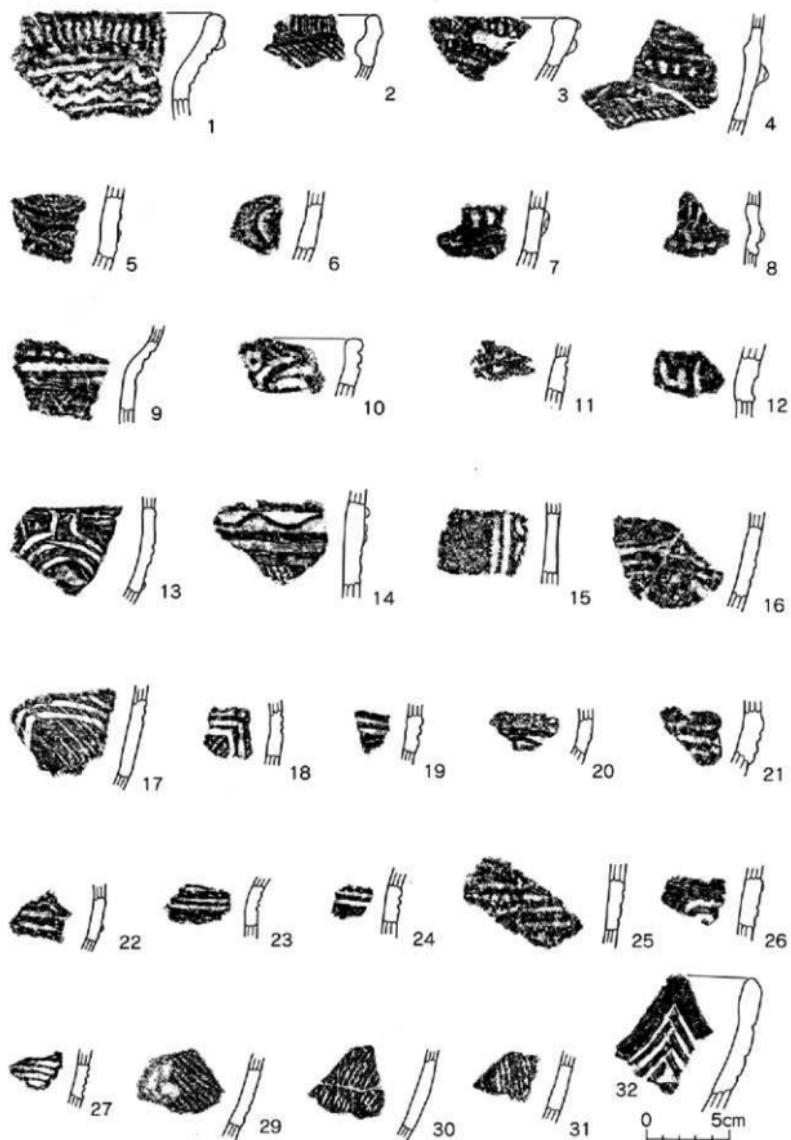
第17図 館之越遺跡調査概要図



第18図 館之越遺跡トレンチ概要図



図版14 館之越遺跡(1)



第19図 館之越遺跡土器拓影図



第一群土器



第1群土器



第2群土器  
(右下)



出土石器



圖版 15 館之越遺跡 (2)

### 13. かんかね館

所在 地 長井市勘進代地内

調査期日 平成 12 年 11 月 26 日

起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市街地の北西部、通称かんかね山の山頂に位置し標高 520 m を測る。遺跡は南北に連なる朝日山系から張り出した尾根に築かれており、南と東側には急峻な斜面が迫っている。また、本遺跡の周囲には城館遺跡が密集し北方約 1 km の尾根には金剛山砦、南方約 1.2 km には戸根林館が、南東約 0.5 km には山館が点在している。

調査結果 このたびは縄張図を作成し遺構の図面化にあたった。遺跡はほぼ南北にのびる尾根上に築かれ東西約 60 m 南北約 140 m の規模を有し、本市の城館遺跡では中規模の館跡である。西斜面には幅約 2 m ~ 6 m、長さ 40 ~ 110 m、高低差 2 ~ 4 m の帯廊が 3 ~ 5 重巡り、部分的に連結する箇所もみられ上下間の連絡道の役割を担っている。尾根筋には馬蹄形の廓が 13 箇所確認され帯廊と複雑に連結し、防衛機能を高めている。北は 12 × 25 m の規模で高低差 4 m を有する堀切が築かれており、北側には遺構が確認されていないことから、堀切が本遺跡の北端である。帯廊群の西斜面は入組んだ構造を呈している。急斜面において帯廊に垂直に畝状の溝が 6 条掘り込まれている。溝は幅 1 ~ 2 m、長さ 5 ~ 8 m、深さは最深部で 2 m に達する。溝群から谷にかけての斜面は遺跡周辺のなかでは比較的緩やかな角度を呈しており、溝と入組みを構造を取り入れた範囲が本館の虎口と推測される。



席 ①



席 ②

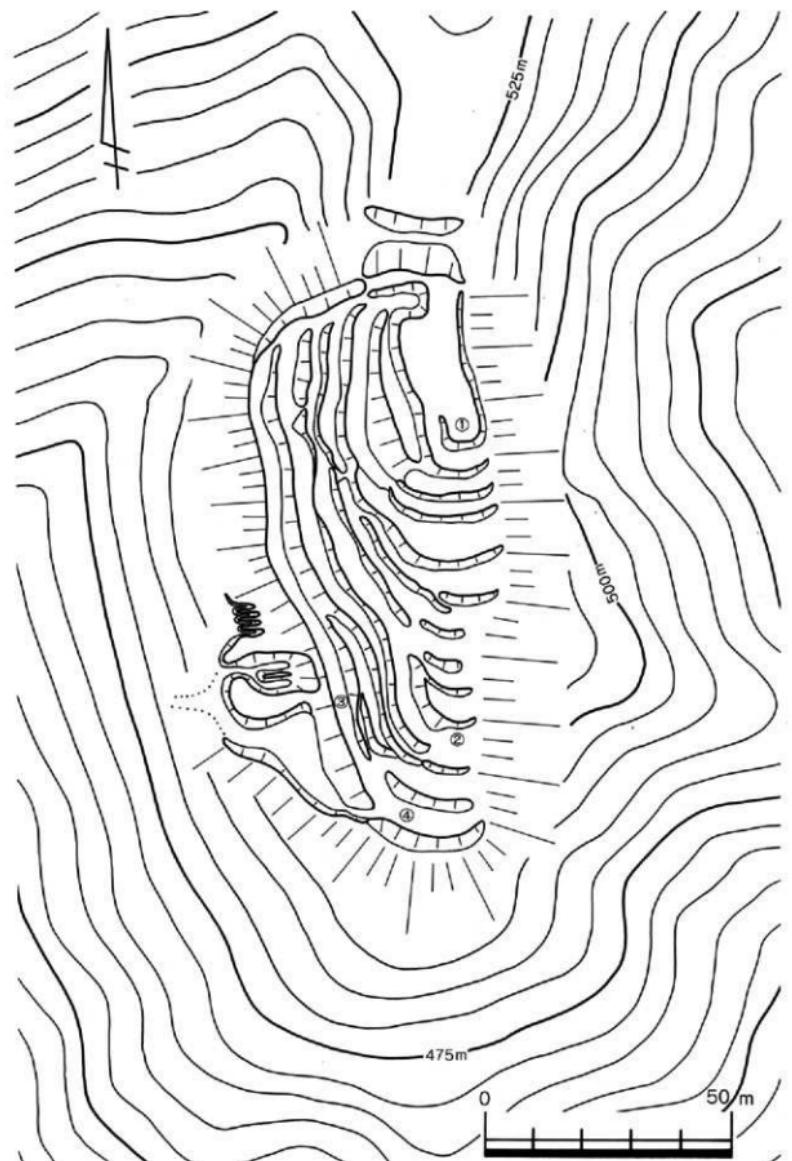


帯 廊 ③



帯 廊 ④

図版 16 かんかね館



第20図 かんかね館縄張図

# 報告書抄録

| ふりがな   | しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ                      |          |          |                   |                    |  |  |                              |
|--------|---|----------|----------|-------------------|--------------------|--|--|------------------------------|
| 書名     | 市内遺跡発掘調査報告書                               |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 副書名    | 歌丸館の調査、清六清水遺跡の調査、堀端遺跡の調査、館之越遺跡の調査 他       |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 卷次     | 9   |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| シリーズ名  | 山形県長井市埋蔵文化財調査報告書                          |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| シリーズ番号 | 第18号                                      |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 編著者名   | 岩崎 義信                                     |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 編集機関   | 長井市教育委員会                                  |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 所在地    | 〒990-8601 山形県長井市ままの上5番1号 TEL 0238-84-2111 |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 発行年月日  | 西暦2001年3月30日                              |          |          |                   |                    |  |  |                              |
| 所収遺跡名  | 所在地                                       | コード      |          | 北緯                | 東経                 | 調査期間                                   | 調査面積                                   | 調査原因                         |
|        |   | 市町村      | 遺跡番号     |                   |                    |  |  |                              |
| 歌丸館    | 山形県長井市<br>歌丸字本郷                           | 6209     | 127      | 38度<br>03分<br>19秒 | 140度<br>02分<br>02秒 | 2000.<br>11.27~<br>2000.<br>12.07      | 232m <sup>2</sup>                      | 市道改良工事に伴う立会調査                |
| 清六清水   | 山形県長井市<br>今泉字山田                           | 6209     | 121      | 38度<br>03分<br>07秒 | 140度<br>03分<br>30秒 | 2000.<br>09.11~<br>2000.<br>09.14      | 380m <sup>2</sup>                      | 社屋造成に伴う立会調査                  |
| 堀端     | 山形県長井市<br>中道字堀端                           | 6209     | 新規<br>発見 | 38度<br>06分<br>18秒 | 140度<br>01分<br>38秒 | 2000.<br>04.24~25<br>2000.<br>09.06~14 | 215m <sup>2</sup>                      | 宅地造成に伴う試掘調査                  |
| 館之越    | 山形県長井市<br>今泉字館之越                          | 6209     | 107      | 38度<br>04分<br>59秒 | 140度<br>02分<br>25秒 | 2000.<br>10.24~25<br>2000.<br>11.21~22 | 94 m <sup>2</sup><br>25 m <sup>2</sup> | 宅地造成に伴う試掘調査<br>遺跡台帳整備に伴う試掘調査 |
| 所収遺跡名  | 種別  | 主な時代     |          | 主な遺構              |                    | 主な遺物                                   |  | 特記事項                         |
| 歌丸館    | 館跡  | 戦国期、江戸中期 |          | 堀跡、土坑、柱穴、溝跡       |                    | 内耳鍋、陶磁器                                |  |                              |
| 清六清水   | 集落跡                                       | 奈良・平安時代  |          | 掘立柱建物跡、柱穴         |                    | 須恵器                                    |  |                              |
| 堀端     | 集落跡                                       | 奈良・平安時代  |          | 土坑、柱穴、溝跡          |                    | 須恵器、土師器、墨書き土器                          |  |                              |
| 館之越    | 集落跡                                       | 縄文時代中期   |          | 土坑、柱穴             |                    | 縄文土器、石匙、剥片                             |  |                              |

---

**長井市埋蔵文化財調査報告書 第18集  
市内遺跡発掘調査報告書(9)**

平成13年3月30日 印刷  
平成13年3月31日 発行

発行 長井市教育委員会  
山形県長井市まの上5番1号  
TEL (0238) 84-2111

印刷 (株)芳文社 よねざわ印刷  
山形県長井市十日町一丁目9番2-1号  
TEL (0238) 84-2148

---

